

巻頭言

人間の安全保障の追求と SDGs

創価大学平和問題研究所 所長 玉井秀樹

創価大学平和問題研究所は研究活動の軸として人間の安全保障を据えて取り組んできた。今日では、人間の安全保障的な価値が、国連システムなど国際社会における規範として定着してきているといえよう。そして、人間の安全保障の価値を実現する行動目標として結実したものがSDGsではないかと思う。

今や日本も含めた世界各国政府、企業、大学、市民運動など様々なアクターが、SDGs達成を目指す実践に取り組む時代となった。本学創立者が示される人間主義の思想と「価値創造」という本学の理念は、SDGsの目的と強く共鳴するものである。創価大学としては創立50周年をめぐってSDGsへの取り組みをさらに強化している。

平和問題研究所は2016年に設立40周年を迎え、記念シンポジウム「アジアにおける人間の安全保障」を開催したが、これは本学におけるSGU（スーパーグローバル大学創成事業）の中核であるグローバル・コア・センター開設を記念するイベントでもあった。

本学SGUでは「2023年までに創価大学を平和研究分野で世界的なコア・センターにする」ことをめざし、平和問題研究所の活動強化と平和学修士課程の開設をすすめてきたが、2018年に「国際平和学研究科（School of International Peace Studies: SIPS）を開設し、平和問題研究所は所員を刷新して新たに4つの研究プロジェクトを発足させた。

2018年より活動を開始した、「Human Security and SDGs」、「Global

Justice and Human Rights」、「Multilateralism in Asia」、「Peacebuilding in Africa」の各チームの取り組みについては、今号に掲載の活動報告を参照していただきたい。

また、韓国・慶南大学との交流から始まった「ピース・フォーラム」も、2017年に本学が主催して第1回会合を沖縄で開催することができた。（詳細は当研究所発行の議事録を参照いただきたい）そして、2018年には、台湾の中国文化大学が主催し、台北にて第2回会合が行われた。2019年には提唱者である慶南大学が主催し、濟州島で開催される予定で、アジアにおける平和構築を追究するこの3大学の共同研究も順調に発展している。今後は、さらに多くの研究機関との共同研究の実施に取り組んでいく予定である。

一方、八王子のキャンパスでは、平和講座を中心として講演会、セミナーの開催も推進している。これも本学SGUの取り組みであるが、教養科目カリキュラムを改定して「世界市民教育科目」を開講した。これまで研究所としてコーディネートしてきた「平和学Ⅱ」をあらため「平和と人権」、「環境と開発」という新科目として運営することになった。本学にお招きする学外研究者や実務家にこの科目で講演（平和講座）をしていただくことも多い。

平和の創造、人権の擁護、そしてSDGs達成のために各界で活躍する専門家のお話を直接うかがうことは我々以上に、学生たちにとって最高の学びの機会となる。今号にはそうしたゲストスピーカーの講演抄録を掲載させていただいた。

特に、昨年逝去された大沼保昭先生の講義を掲載させていただけたことに深い感慨を禁じえない。本学草創期の大功労者である大熊信行先生が縁となり、大沼先生が、当研究所客員教授のお招きに応じてくださったことはたいへん嬉しく、光栄なことであった。大沼先生の本学における最後の講義の掲載をお許しくださった御遺族に感謝申し上げるとともに、大沼保昭先生の御冥福を衷心よりお祈りするものである。

大沼先生をはじめ、多くの方々のお力を得て、平和問題研究所も研究活動の更なる発展へと歩みを進めることができたことに深く感謝申し上げ、これまで以上に研究成果をあげていくことでお応えしていきたい。